

【蒔絵】
まきえ

企画展

はじめての 古美術鑑賞

漆の装飾と技法



2018年5月24日(木) - 7月8日(日)

根津美術館 NEZU MUSEUM

〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 <http://www.nezu-muse.or.jp> 電話 03-3400-2536

今回で3回目となる「はじめての古美術鑑賞」シリーズは、「漆器」を取り上げます。

漆は古代より人々の生活の道具に使われてきました。縄文土器に塗られている朱色の漆は、その一例です。奈良時代になって中国から美しい装飾を加えた漆器が紹介されると、我が国でも金粉を施した漆器がつくられるようになりました。これが蒔絵といわれる装飾のはじまりで、この技法は我が国において発展し、蒔絵の器は日本を代表する工芸品として世界に知られるようになりました。

蒔絵のほかにも、日本では中世以来、中国や朝鮮半島の漆器を「唐物漆器」と称して特に大切にしてきた伝統があります。螺鈿、彫漆、存星など様々な技法で作られた漆器がそれで、現在では日本にしか残っていない種類の作品も数多くあります。高い技術と多くの工数を要する漆器は大変貴重なものですが、陶磁器と比べて割れにくいことから、広く日常に使われていたこともわかっています。

この度の展覧会では、日本や中国、朝鮮半島の漆器の歴史や装飾、その技法などをわかりやすく解説してゆきます。日本人の美意識によって護られてきた漆器の伝統を身近に感じていただく機会となれば幸いです。

根津美術館
NEZU MUSEUM



まきえ
【蒔絵：多彩な技法】

漆の強い接着力をいかした技法。漆で描いた部分が固まらないうちに、金粉などを蒔いて固着させ、絵を表す。多様な技が生み出され、日本で独自に発達してきた。

梨子地：なしじ

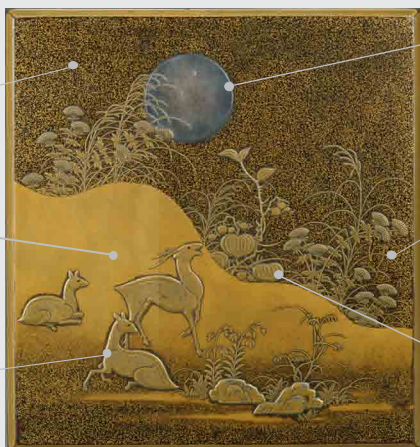
薄く延ばした金粉を地にまばらに蒔いた後、漆で塗り込めて仕上げる技法。

研出蒔絵：とぎだしまきえ

金粉などを蒔いた後、漆で器面全体を塗り込み、研いで仕上げる技法。

高蒔絵：たかまきえ

文様部分を高く盛り上げて、立体的に見せる蒔絵技法。



平文：ひょうもん

金属の薄板を文様に切り抜いて貼り、漆で塗り込み、研いで仕上げる技法。

葦手：あしで

意匠の出典（和歌など）を判じさせる文字を、絵の中にとけこむように散らしたもの。

描割：かきわり

線の表現技法のひとつ。線を表したい部分を避けて蒔絵をする。

かすがやまきえ すずりぼこ
重要文化財 春日山蒔絵硯箱
1合 木胎漆塗
日本・室町時代 15世紀
根津美術館蔵

足利義政の愛蔵品として知られる硯箱。蓋表の満月に照らされた秋野の風景は、室町時代の蒔絵作品の中でも多彩な技法を用いて作られている。

らでん
【螺鈿：きらめく文様】

夜光貝などの貝殻の真珠層を薄片にし、小さく切って漆器の表面に貼り付け手装飾する技法。中国で始まり、奈良時代に日本へ伝えられ、平安時代には、蒔絵にも併用された。

全面に細かな花唐草文や楼閣人物文を施した箱は、高麗時代の作風も見受けられ、謎に満ちた華麗な作品である。

ろうかくじんぶつもんはこ
楼閣人物文箱
1合 木胎螺鈿
中国・元時代 14世紀
根津美術館蔵



(蓋拡大図)

ぞんせい
【存星：端正にして豪華】

存星とは、色漆を塗り重ね、文様を彫ってそこに別の色の漆を埋める技法。輪郭線にも金が施されている。

存星の箱の蓋表には、四本の靈芝を結んだ文様を中心に、八宝文を配し、四方に桃果などの吉祥文をシンメトリーに配置する。輪郭線や葉脈などに金彩を施した豪華な作品。

ぞんせいかじつたからもんちようほうごうす
存星果実宝文長方盒子
1合 木胎漆塗
中国・清時代 18世紀
根津美術館蔵



(蓋拡大図)

ちょうしつ
【彫漆：色漆と彫刻の華麗な融合】

陶磁器や金属、木胎に漆を厚く塗り重ね、それに彫刻を施す技法。朱漆を彫った堆朱や、黒漆を彫った堆黒などがある。

黒漆を基本として、これに朱や黄色、時には緑色の漆を薄く重ねて塗り、これを彫り込んで文様を表す技法を彫漆と称しているが、我が国では堆朱あるいは堆黒と呼んでいる。艶やかな黒漆に細く入る朱や黄の層が見事である。

ついでくぐりもんごうす
堆黒屈輪文合子
1合 木胎漆塗
中国・南宋時代 12-13世紀
根津美術館蔵 永田牧子氏寄贈

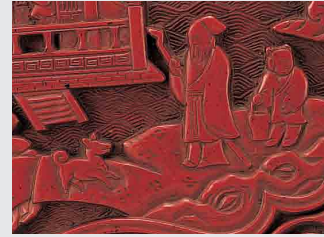


屈輪文：ぐりもん

渦巻文や、雲文に似た曲線で構成された文様。複数色の漆を塗り重ね、これを彫り込んで施された文様の一つ。日本には鎌倉時代に南宋時代の中国から屈輪文の香合や盆が輸入された。

花形に作った盆の中央には、松の巨木を背に楼閣を配し、これに向かう人物二人。迎えに走り寄る犬が愛らしい。朱色の漆を塗り重ね、地の黄漆が鮮やかである。

ついでろうかくじんぶつもんりんかぼん
堆朱楼閣人物文輪花盆
1枚 木胎漆塗
中国・明時代 16世紀
根津美術館蔵



(拡大図)

【このほかの主な展示予定作品】

ほうそうげきんひょうもんげさぼこ
宝相華銀平文袈裟箱 (日本・平安時代)、あきのまきえ てぼこ
秋野時絵手箱 (日本・鎌倉～南北朝時代)、はなのしらかわまきえすずりぼこ
花白河時絵硯箱 (日本・室町時代) [いずれも
重要文化財 当館蔵]、なりひらまきえすずりぼこ
業平時絵硯箱 (日本・江戸時代 当館蔵)、からくさでん おおぶんこ
唐草螺鈿大文庫 (朝鮮・朝鮮時代 18-19世紀 当館蔵) など

同時開催展

茶道具の銘には、和歌からとられたものがあります。館蔵品の中から、こうした作品を選び、その由来を紹介します。

亀尾の瀧を詠んだ『古今和歌集』の歌にちなむ。茶入の中央にあるくぼみの白い部分を、瀧壺の水しぶきに見立て、本歌を連想したのであろう。

ぶんりんちやいれ かめのお
文琳茶入 銘 亀尾
薩摩 1口 施釉陶器
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵



亀の尾の山の岩根をとめておつる
瀧の白玉千世の数かも
きこのれおか
紀惟岳

展示室6

季夏の茶の湯—名水点て—

茶の湯では夏に涼を呼ぶための趣向のひとつとして、名水を用いて茶を呈する「名水点て」を行います。水に因んだものなど季節の茶道具約20件を取り合わせます。



盆栽や、水を張って草花を生けるための鉢。とりわけ水辺に自生する植物・石菖を植えたことから、「石菖鉢」とも称される。

せいじろいざんそくすいばん
青磁播座三足水盤
龍泉窯 1口 施釉陶器
中国・元時代 14世紀
根津美術館蔵

関連プログラム

スペシャルトーク 「漆の今、そして未来」
日時 6月3日(日) 午後2時～3時30分
講師 田中 信行氏 (金沢美術工芸大学 教授)
聞き手 西田 宏子 (当館顧問)
会場 根津美術館 講堂
定員 130名

(申し込み方法) 当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者につき1枚)に参加を希望される講演会名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館講演会係宛にお送りください。
※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライドレクチャー 展示の見どころを、それぞれのテーマで解説いたします。
・「漆の技法―蒔絵」 6月1日(金)
講師 永田 智世氏(漆工史研究者)
・「漆の技法―螺鈿、彫漆、存星」 6月8日(金)
講師 西田 宏子(当館顧問)
会場 根津美術館 講堂
定員 いずれも130名
※各回とも午後2時より45分間程度。開始の15分前より開場。
※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

特別催事 演奏会「蒔絵のハーブをたのしむ」
日時 7月1日(日) 午後2時～3時30分
出演 吉野直子氏 (ハーブ奏者)
室瀬和美氏
(漆芸家・重要無形文化財保持者[蒔絵])

現代の漆芸の第一人者・室瀬和美氏が蒔絵を施したハーブを、ハーブ奏者・吉野直子氏の演奏で楽しみましょう。お二人のトークセッションもごさいます。

※参加券は当館で販売予定です。詳細は後日当館ウェブサイト等でご案内いたします。

設備整備休館のお知らせ

7月9日(月)～8月31日(金)

「はじめての古美術鑑賞―漆の装飾と技法―」展終了後、設備整備のため庭園、NEZUCAFÉを含む全館休館とさせていただきます。あらかじめどうぞご了承ください。

開催概要

展覧会名 企画展「はじめての古美術鑑賞―漆の装飾と技法―」
主催 根津美術館
開催期間 2018年5月24日(木)～7月8日(日)
開館時間 午前10時～午後5時
[入館は午後4時30分まで]
休館日 毎週月曜日
入館料 一般1100円(900円) 学生800円(600円)
()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
前売券 一般900円 学生600円
※2017年4月14日(土)～5月13日(日)「光琳と乾山」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
お問合せ TEL 03-3400-2536 (代表)

<記者内覧会のご案内>

上記展覧会の記者内覧会は、2018年5月23日(水)午後1時30分より開催予定です。ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡ください。

次回展

企画展

禅僧の交流

―墨蹟と水墨画への誘い―

2018年9月1日(土)～10月8日(月・祝)



ほていしょうまかもんどうす
国宝 布袋蔣摩訶問答図 因陀羅筆・楚石梵琦賛
中国・元時代 14世紀 根津美術館蔵

禅僧は、日本や中国の文化の担い手であり、相互の交流もありました。彼らの書である墨蹟や、彼らが詠んだ詩を付した絵画などをご覧ください。

<リリース・広報のお問い合わせ>

根津美術館 広報課: 所, 村岡 TEL:03-3400-2538(直) E-mail:press@nezu-muse.or.jp

※本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報はお問い合わせください。(2018.3)